

令和4年度 雀宮南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など） 南の子 なかよく かしこく たくましく

○なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)

○かしこく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)

○たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己肯定感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

小学校は、子供の夢を育てていく場所であり、多様な経験を通して学んでいく場所である。個の成長を認めることを基本とし、教育活動の充実・改善を通して、一人一人が自分の成長を実感し自己肯定感をもてる学校づくりを進めていく。そのためには、教職員が互いに教師力を磨き合い、それぞれの専門性や個性を発揮しながら、明るく笑顔で教育活動を推進していくとともに、地域・保護者・児童・教職員が心一つにして、「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」を目指して努力していく

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和3年度指導の重点を踏まえ、児童・教員・保護者・地域が協力しながらそれぞれの役割を果たす学校経営に努める。

- (1) 児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに努める。
- (2) 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- (3) 教育活動全体を通して、計画的・系統的に人権を尊重する心、人を思いやる心、規範意識などを育むとともに、折れない心や、やり抜く心など心のたくましさの涵養に努める。
- (4) 生涯にわたって自他の生命を尊重し健康で安全な生活を送れるよう、自ら進んで体力づくりをしようとする態度や健康管理する能力、望ましい生活習慣、危険を予測し回避する行動を身に付ける力の育成に努める。
- (5) 情報化の急激な時代の変化に向き合い生き抜くための資質・能力を身に付けることができるように情報活用能力の育成に努める。
- (6) 教職員が同僚性と協働性、職種の利点を発揮したチーム力の向上を通して、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- (7) 教育者としての使命感を自覚し、研究・研修、日常の相互研鑽等を通して、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- (8) 教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- (9) 地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- (10) 地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・よさを生かした教育活動を推進する。

【雀宮地域学校園教育ビジョン】一人一人が自らの良さを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や教師と児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化が図れる教育課程の編成に努める。
- (2) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 児童一人一人がよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じる教育活動の展開
- 児童が、自己の成長を実感できる教育活動の展開
- 認め励ます教育の一層の推進
 - ・道徳教育・人権教育の充実を通じた、豊かな人間性と他者を思いやる力の育成と折れない心ややり抜く心などのたくましさの涵養
 - ・地域と目標を共有し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開
 - ・業務を効率化し時間的な余裕の中で質の高い教育活動を展開するための環境の整備と教職員の意識改革
 - ・コロナ禍における感染防止対策の徹底と情報発信による保護者・地域の理解の促進

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
「宇都宮モデル」の「はっきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業改善
児童が学習の見通しを立てたり、学習内容を振り返って次につなげたりする学習活動の展開
児童自らが学習課題や学習活動を選択する展開の工夫
児童が、自分の考えをもち表現、議論する中で、学びを深めていく授業展開の工夫
各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる発問や学習活動の工夫
獲得した知識を関連付け深く理解したり、生活や他教科で活用したりする学習活動の展開
 - ・基礎学力の向上に向けた取組の充実
TT等を取り入れた朝の学習の充実
単元や学期ごとに復習するまとめ学習の充実
学習したことを振り返って復習したりする家庭学習の習慣化
AIドリル等の活用による計画的な家庭学習
 - ・ICTを効果的に活用した授業展開の工夫（1人1台端末、デジタル教科書等の活用）
 - ・言語能力、情報活用能力やSDGsに係る現代的な諸課題に対応する力を育てる問題解決的学習や教科等横断的指導の充実
 - ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団づくり
 - ・学校行事や特別活動などで自分の変容や成長を実感できる学習活動の工夫（キャリア教育の充実）
 - ・図書、ICTの活用能力を向上させる指導の充実（1人1台端末の活用の推進）
 - ・家庭での読書習慣の形成
- 【児童生徒指導】
- ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする態度の育成
 - 相手の気持ちを考えて行動する実践力（あいさつ・場に応じた言葉遣い等）の育成
 - ・ いじめ・不登校を生まない指導と居がいのある学級づくり
 - ・ 家庭での生活を振り返り、よい生活習慣を身に付けようとする態度と情報モラルの育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】
- 健康に関する知識を正しく理解し、健康で安全な生活を営む力を育むとともに、進んで運動に取り組む児童の育成
 - 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができる児童の育成
 - ・ 危険を予測し、自らの命を守るための行動力の育成
 - ・ 自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 学びの質を高めるために、めあての立て方、ノートを取り方、まとめ、振り返りの仕方などについてきめ細やかな指導を行う。 ② 言語活動を充実し、主体的・対話的に取り組めるような授業の展開を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.8%で指標を上回ったが、昨年度より、4.5%下がった。 【次年度の方針】 ・授業中の学習態度の指導方針を全職員で共通理解を図り、指導の徹底を図るとともに。児童が主体的に取り組めるよう、学習のめあてや学習内容を子供たちと一緒に組み立てる授業を実践する。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げて、互いに称賛できるようにしている。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.5%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・道徳や学級活動、また、縦割り活動を通して、思いやりの心を育てる。 ・学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。

目 指 す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 「よい子の日（きまり）」「遊びのきまり」や生活目標の周知徹底を図ることで、規範意識を高め、はじめのある行動がとれるようにする。 ② 人権教育や道徳の授業、運動会・全校遠足等の学校行事の活動を通して、集団の一員としての自覚を高めていく。	A 【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 86.8%で指標を上回ったが昨年度より、4.4%下回った。 【次年度の方針】 - 生活目標の周知方法を工夫することで規範意識を高めるとともに、振り返る機会を設ける。 - 公德心・公共のマナーなどについて、道徳教育や人権教育を通じて、指導の充実を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童・地域・保護者が協力し合い、朝のあいさつ運動を定期的（6月・10月）に行う。また、代表委員会やボランティアによるあいさつ運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特別活動の時間で礼儀の授業を行い、児童の意識を高める。	B 【達成状況】 - 保護者の肯定的回答は 75.1%で指標を下回ったが、昨年度より、2.7%上回った。しかし、教職員は 55.0%と評価しているため、改善が望まれる。 【次年度の方針】 - 登下校時に地域の方に児童自らあいさつができるよう指導する。 - 校舎内においても、教職員や学校に来られた方々に対して、会釈やあいさつができるように機会を捉えて指導する。 - ボランティア募集や各学級単位での啓発など、あいさつ運動の内容を検討する。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。→児童の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 87.1%で指標を上回り、昨年度課題であった保護者への取組周知は 76.1%と昨年度より、6.8%増加した。 【次年度の方針】 - 引き続き、本年度の取組を継続し、キャリアパスポート等を活用して児童に自分の良さや適性、将来の生き方を考えさせていくとともに、保護者にも児童の姿を見せ、意識を高めていく。 - 目標達成に向けて取り組む姿を懇談会や学年日より等で積極的に周知する。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。→児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的に実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 健康に関する知識を正しく理解し、進んで運動に取り組んだり、自らの食生活を振り返ったりし、望ましい生活習慣を図る態度を育成する。	A 【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 92.7%、保護者は 92.5 で指標を大きく上回った。毎日の健康観察の徹底や保健だよりの配付や下校時の学年下校での指導が効果的であった。 【次年度の方針】 - 登下校のルールやマナーについて指導を継続する。 - 児童の安全意識を高め、危機回避能力を身に付けさせるため、様々な場面を想定した避難訓練を実施する。 - 健康や安全について指導を継続すると共に、基本的生活習慣を身に付けさせる取組をする。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かって社会に貢献できるよう努力している。→児童の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B 【達成状況】再掲 A5 ・児童の肯定的回答は 87.1%で指標を上回り、昨年度課題であった保護者への取組周知は 76.1%と昨年度より、6.8%増加した。 【次年度の方針】 ・引き続き、本年度の取組を継続し、キャリアパスポート等を活用して児童に自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせていくとともに、保護者にも児童の姿を見せ、意識を高めていく。 ・目標達成に向けて取り組む姿を懇談会や学年だより等で積極的に周知する。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② ALTと連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.7%で指標を上回った。また、昨年度より、3.3%上昇した。 【次年度の方針】 ・ALTとの事前の打ち合わせ時間を確保して連携する。 ・授業以外でも児童とALTがコミュニケーションできる場面を設定する。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っている。→児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮における人・自然・社会などについて様々な場面で意図的に触れさせ、興味・関心がもてる工夫をする。 ② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 82.4%で指標を上回り、昨年度夜よりも 1.9%上昇した。 【次年度の方針】 ・低学年においても宇都宮のよさを知ることができるようなはたらきかけを折に触れて行う。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。→教職員の肯定的回答 85%以上	① ICT機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。 ② ICT機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で指標を大きく上回った。しかし、児童は 89.1%で差 10.9%あることから、教職員は十分に活用しているが、児童はさらにと望んでいることがわかる。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続しつつ、児童が学習において、ICT 機器や図書等を効果的に活用する場を模索していく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、高齢者に対して、感謝やいたわりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、いきいき班活動等で実践できるようにする。 ② 感謝の会などの学校行事等を通して、感謝の心を表すとともに、温かい人間関係を育む活動をする。	B 【達成状況】再掲 A2 ・児童の肯定的回答は 93.5%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・道徳や学級活動、また、縦割り活動を通して、思いやりの心を育てる。 ・学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 図書の読み聞かせや図書資料、映像資料の活用を通して、教職員が持続可能な社会や SDGs の考え方について理解を深め、授業を含めた機会を捉えて話題に取り上げる。 ② SDGs の内容を掲示し、「持続可能な社会」についての啓発を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.0%で指標を大きく上回り、昨年度より 36.7%も高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き教職員が SDGs の考え方についてより理解を含めていき、次年度も、適宜 SDGs について、授業を通して触れることで、児童の関心も高めていく。

	B1 本に親しみ、進んで見聞と視野を広げようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで本を読んでいる」→児童の肯定的回答 80%以上	① いろいろな分類の本を読めるように読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的に学習に必要な本を収集し情報センターとしての機能を強化する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 76.8%で指標を下回った。特に、保護者は 59.5%と児童のとの差に 17.3%もある。教職員は 100%と評価しているため、児童、保護者との差がある。 【次年度の方針】 - 司書と担任が連携を取って児童への働きかけを続けていく。 - 校内の読書推進の取り組みについて保護者への情報発信を続ける。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	A	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答は 100%で指標を大きく上回った。昨年度より 4.2%上昇した。 【次年度の方針】 - 計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 - クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 - Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。→保護者の肯定的回答 85%以上	① いじめ防止基本方針に基づき、いじめアンケートや教育相談等を活用して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を図る。 ② 教育活動のあらゆる場面を通して、児童の人権感覚を育み、いじめが許されない行為であることを指導する。学年便りの工夫や懇談会で伝えたり、ホームページを活用したりして情報を発信する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 96.8%で指標を大きく上回ったが、教職員は 100%、保護者は 76.6%であり、差がある。 【次年度の方針】 - 学年だよりや学校HP等に各クラスのいじめゼロスローガンを掲載し、いじめに関する取り組みの様子を掲載する。 - 昇降口付近に各クラスのいじめゼロスローガンを掲示する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対応を図る。 ② 不登校とならないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。	A	【【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 95.3%で指標を上回ったが、教職員は 100%、保護者は 84.7%で昨年度より 6.2%減少した。 【次年度の方針】 - 児童を指導するにあたっては、よりよい人間関係を構築できるよう蓄積したデータ等を有効に活用する。また児童が自己肯定感を高めたり、居がいを感じたりできる学級づくりをする。 - 保護者に対しては、学年だより、HP等を通じて、本校の取組について、発信する機会を作っていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営やわかる授業を展開する。 ③ 必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	A	【達成状況】再掲 A13 - 教職員の肯定的回答は 100%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 - 計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 - クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 - Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。

A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 私は、今の学校が好きです。→児童の肯定的回答 85%以上	① いきいき班による異学年交流活動に積極的に取り組み、児童主体の活動を展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。 ② 児童一人一人が自分の良さを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに取り組む。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 88.9%で指標を上回った。また、保護者は89.0%,教職員は100%とそれぞれ昨年度よりも評価が上がった 【次年度の方針】 - 今後も児童が活躍できる場を設定することで、居がいのある学校づくりを推進する。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。 ② I C T（一人一台端末等）の積極的な活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導（習熟度別学習）等で「楽しくわかる授業」を推進していく。 ③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランに基づき授業を展開する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 94.4%で指標を上回った。算数科における習熟度別学習や個に応じた指導、丁寧な学習支援が効果的であった。しかし、保護者は 83.2%であるため、引き続き、学力向上だよりの配付等で周知を図る。 【次年度の方針】 - 授業の展開を工夫するため、I C T 機器を活用した資料を提示する。 3年生以上の少人数および習熟度別学習に工夫を加え、計画的に行う。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。 ② 校内の様々な職種の特性を生かして協力し、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。	A	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答は 95.0%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 - 専門性を有するスタッフと連携し、行内のニーズとつなげ、多角的な解決策が得られるように取り組んでいく。 - 情報共有を密にし、教職員が力を出し合い、より一層協力できるようにしていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、業務の効率化を意識した計画とする。 ② ミライムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。	A	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答は 100%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 - 行事や活動について、今年度の反省を基にさらに業務の効率化・簡素化を図る。 - ミライムの出退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方に対する意識改革を促進する。 - 各種たよりの配信について、さくら連絡網の活用を検討する。 - 電話の受注時間の短縮や金曜日課の導入を検討する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」→児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園であいさつ運動を定期的に実施することで中学生との交流を深める。 ② 地域学校園内での小中乗り入れ授業や分科会を通して小・中教職員間の勉強会や情報交換を積極的に実施していく。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 85.7%で指標を上回った。昨年度より 10.7%上昇した。 【次年度の方針】 - 宮っ子チャレンジとあいさつ運動での中学生との交流活動を通して、小中一貫教育地域学校園での取り組みを充実させる。

本校の特色・課題等	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 学校便りやHPで、PTA活動や各種ボランティア活動を活用した教育活動の様子を積極的に活用していく。 ② 保護者や地域の教育活動に関する要望には、教職員同士が協力し合い、迅速に対応する	B	【達成状況】 ・保護者肯定的回答は84.8%で若干下回り、地域住民は88.9%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・様々なボランティアの活動内容について、各種たよりに記載したり、校内放送で動画を流したりするなど児童へ積極的に周知する。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① PTA・安全パトロール隊（自治会）・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。 ② 菜園ボランティアをはじめ、地域ボランティア活動を積極的に推進し、児童の教育活動の充実に努める。 ③ 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める。	B	【達成状況】再掲 A22 ・保護者肯定的回答は84.8%で若干指標を下回った。 【次年度の方針】 ・様々なボランティアの活動内容について、各種たよりに記載したり、校内放送で動画を流したりするなど児童へ積極的に周知する。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。→保護者・地域住民肯定的回答 80%以上	① 施設の設備点検を実施し、必要のある場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。 ② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。	A	【達成状況】 ・保護者・地域住民の肯定的回答はそれぞれ91.3%、100%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・安全点検を中心に情報交換を密にして施設の安全管理に取り組む。 ・誰もが安心して学校を利用できるように、衛生面に配慮した環境を整える。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 教職員は、ICT機器や図書等を整備している。→教職員の肯定的回答 85%以上	① ICT機器や図書館等を活用した分かる授業を展開するため、設備の充実を図る。 ② ICT機器や図書等を活用して授業の改善を推進するため、設備の充実を図る。	A	【達成状況】再掲 A10 ・教職員の肯定的回答は100%で指標を大きく上回った。しかし、児童は89.1%で差10.9%あることから、教職員は十分に活用しているが、児童はさらにと望んでいることがわかる。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続しつつ、児童が学習において、ICT機器や図書等を効果的に活用する場を模索していく。
	B2 教職員は児童のよさや努力を認め、励ます指導を行っている。 【数値指標】 教職員は児童のよさや努力を認め、励ましてくれる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 教職員は児童が互いのよさを認め合う機会を設け、また、認め、励ます指導により、自信をつけられるよう努める。 ② 児童が自己肯定感を持ち、自分のよさを生かして活躍できる場を設定し、自尊感情が高められるよう努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は75.7%で指標を大きく下回り、保護者も79.3%と同程度だった。教職員は、95.0%で児童との差が大きかった。 【次年度の方針】 ・学級懇談や学年だよりで、子どもの頑張りを定期的に発信する。 ・学年だよりの「学びの窓」に、子どもの様子も掲載していく。 ・言葉によって褒めるだけでなく、努力による達成感を味わう体験を重ねることで、自信を付けさせ、自尊感情が高められるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- A3「あいさつ」においては、児童93%に対して自分たちはよくできているとおもっているが、教職員は55.0%と生活習慣に課題意識をもちながら、日々指導にあたっている。この差を今後どう埋めていくかが課題である。
- ・ A5（A7）「夢や目標」では、昨年度より教職員は10.8%、保護者も6.8%と評価が上がっているが、児童は、評価は高いものの引き続き、夢や目標をもたせる工夫が必要と考える。
- ・ A9「宇都宮の良さ」では、昨年度に比べ、児童、教職員、保護者とも評価が高まった。宇都宮学、道徳科等で引き続き、郷土愛を高めていく必要がある。
- ・ A10（A25）「ICT・図書等」では、教職員と児童の間に活用の差の評価に10%以上開きがあるので、分析し、今後の取組に生かしていく必要がある。
- ・ A12「持続可能な社会への関心」では、昨年度より36.7Pも増加していた。指導を工夫したことが成果につながったと思われる。
- ・ A14「いじめ」では、教職員は児童に向き合い真摯に取り組んでいるが、アンケート自由記述にもありように児童からいじめに関する訴えがあることから、今後も全職員が一丸となり、継続した指導はもとより、保護者との連携・協力、特に取組のよさなど発信について工夫していく必要がある。
- A15「不登校対策」でも「いじめ」対応と同様に教職員は真摯に取り組んでいるが、保護者、児童ともに評価が下がっている。常に組織的な対応ができるよう、また、SCや関係機関との連携などを強化していく必要がある。
- ・ A20「業務の効率化」については、教職員の評価は100%であったが、まだまだ、効率化が図れるよう、努力していきたい。
- ・ B1「本に親しむ」については、教職員、地域住民の評価は100%であったが、児童は76.8%、保護者に至っては、59.5%と昨年度より下がっている。毎月の図書便りの発行やデジタル図書室を開設するなど、今年度も様々な工夫しているため、分析して改善点を探る必要がある。

7 学校関係者評価

- ・ A3「あいさつ」については、元気のよいあいさつができる児童が多いが、たまに下を向いたまま登校している児童も数人見られる。本校では「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」を目指しているので、あいさつができる児童を育成する方法を模索して欲しい。また、きまりやマナーに関しては特に登校時に登校班でまとまって登校できていないことがあるので、安全指導も兼ねて学校での継続的な指導が必要である。
- ・ A5「夢や目標に向かってあきらめず、粘り強く」に児童、保護者ともに肯定的回答の割合が上昇したが、農業体験活動など本校の自然環境を生かした活動を教育活動に位置付けるとよい。
- ・ A12「持続可能な社会」に関しては、教職員が関心をもって指導を工夫していることが伺える。SDGsは社会的関心も高いことから、引き続き、児童の関心を高めていけるとよい。
- ・ A14「いじめ」では、教職員は100%と指導しており、いじめの未然防止、早期発見に努めているとのことだが、児童の回答には、いじめがあった、いじめを見たと回答している児童がいたので、より細かい指導をお願いしたい。
- ・ A15「不登校対策」でも「いじめ」対応と同様に教職員が指導に力を入れていることが伺えた。引き続き、児童の心に寄り添った指導をお願いしたい。
- ・ B1「本への親しみ」では、本校では毎週金曜日に読み聞かせボランティアを行っているので、子どもだけでなく、保護者に対しても読み聞かせの良さを体感する機会を図るとよい。また、今年度からデジタル図書室を開設したと聞いている、ICTを使った効果的な指導にも期待する。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- あいさつに関しては、人間関係を円滑にし、明るく元気に過ごすことができるためには大切な礼儀であるため、指導の徹底をはかり、地域学校園でも重要課題として改善にあたっていく。
- 児童が安全・安心に生活するため、引き続きいじめの未然防止、早期発見、不登校傾向の児童への心のケアなどに最善を尽くしていく。
- ・ 夢や目標に向かって児童が生き生きと学校生活を送れるように、地域の人材などを生かした体験活動や学校行事でキャリア教育につながる活動を実施するなど工夫した教育活動を展開していく。
- ・ SDGsや宇都宮の良さなど、児童が社会で活躍するために大切な教育のさらなる充実を図っていく。
- ・ 児童の学習活動を充実させるため、一人一台端末を授業で有効活用できるような研修を次年度も充実させていく。さらに、図書なども含む学習環境の整備を学習支援ボランティアの力を借りながら計画的に行っていく。

